

【背景】

少子高齢化が進む中、妊娠期から切れ目のない子育て支援や健康寿命の延伸を図る全世代を対象とした健康づくり、生活に関する困り事の解消のための総合的な相談対応など、子どもから高齢者までが生涯を通じてすこやかに生きるための総合的な施策が必要となっている。

また「第6次荒尾市総合計画」の重点戦略『あらお未来プロジェクト』では、保健・福祉・子育て分野のプロジェクトとして「切れ目のない充実した子育て環境をつくる」及び「誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる」を掲げている。

【目的】

本市における保健・福祉・子育てに関するさまざまな課題を解決し、「第6次荒尾市総合計画」で本市が目指す将来像「人がつながり幸せをつくる 快適未来都市」、さらに「南新地地区ウェルネス拠点基本構想」のコンセプト「有明海の夕陽が照らすウェルネスタウンあらお」を実現するために、「保健・福祉・子育て支援施設（仮称）」を整備する。市役所や社会福祉協議会などの保健・福祉・子育てに関する機能を移転・集約し、市全域で行っている保健・福祉・子育てに関する施設や団体などと連携することで、健康づくり、福祉及び子育て支援の充実にかかる事業に総合的に取り組む。

こういった流れを踏まえ、令和2年に「保健・福祉・子育て支援施設（仮称）基本構想」を策定し、令和3年度では「保健・福祉・子育て支援施設（仮称）基本計画」を策定する。

◆コンセプト・ターゲット

①本施設のコンセプト

施設整備の基本理念（コンセプト）を以下のとおり整理する。

コンセプト：

心身の健康と地域の幸せを育み、
子どもの成長や子育てを支援する拠点

～市全体の保健・福祉・子育てのサポートセンター
となり「安心できる暮らしやすいまち」に～

全世代の健康づくりの拠点となり
「人生100年」を支援

「人生100年」を健康で幸せに生きるためには、若い世代から高齢者まで全世代にわたる健康づくりが必要であり、荒尾ならではの特性を活かした楽しく健康になれる取組みや、ICTなどを活用した先進的なヘルスケアサービスをワンストップで提供します。

保健・福祉・子育てに関する相談から支援まで
「専門家がワンストップで対応」

社会福祉協議会を含めて、市の地域福祉や生活支援の機能を集約することで、気軽に専門家に保健・福祉・子育てに関する相談ができ、必要な支援をワンストップで受けられます。

妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援や、利用者
同士が交流・支え合う「子育てしやすいまち」

妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援をワンストップで行うため、子育て世代包括支援センターや子ども家庭総合支援拠点などを集約するとともに、親子で気軽に立ち寄れる施設とすることで、利用者同士の交流や活動を支援します。

②本施設の想定する利用者層

施設整備における主な利用者層を以下のとおり整理する。

本施設の整備目的と施設が果たす役割（方向性）

親と子どもをすこやかに育む拠点
（子育て支援機能）

親同士の交流や子どもの成長をサポートする居場所づくりなどの子育て支援機能を充実させ、親の精神的負担や悩みの軽減に貢献する。

市民が心身ともに健幸になれる拠点
（保健機能）

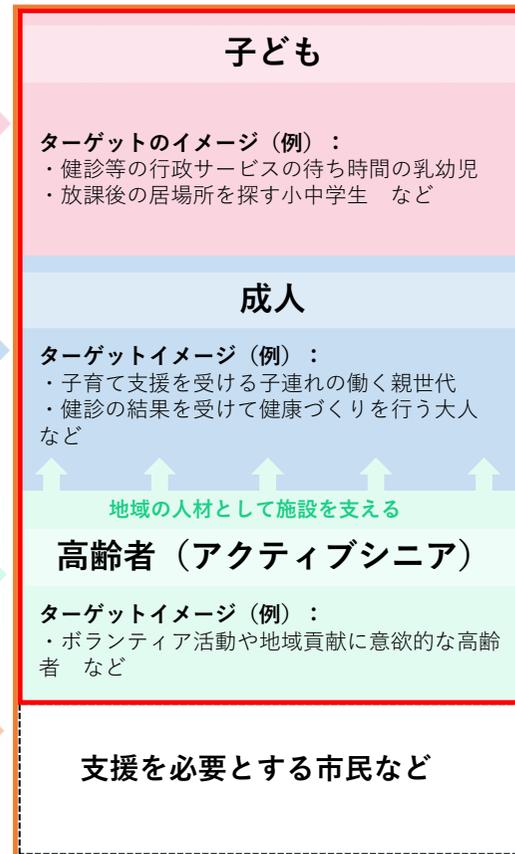
全世代の市民が楽しく健康づくりを行うための新たなサポート体制を構築することで、生活習慣病の予防や介護予防の推進に貢献する。

市民と地域のつながりを支える拠点
（福祉機能）

社会参加の機会を支えることで、高齢者をはじめとする地域の人材の社会参加の機会を提供する。

共通機能

保健・福祉・子育てに関する相談や行政サービスをワンストップで受けやすくなることにより、支援を必要とする人が必要なサポートを受けやすい体制を構築する。

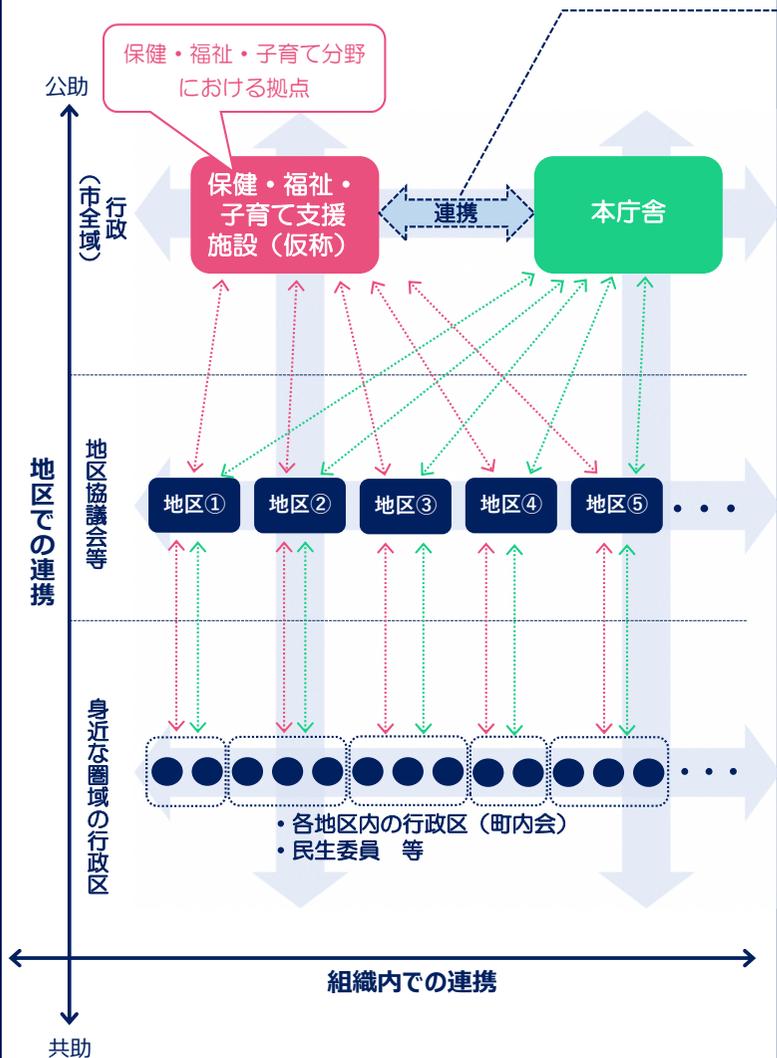


◆施設整備の基本的な考え方

保健・福祉・子育て分野における本施設の位置づけや本庁舎及び他団体との連携の考え方を以下に示す。

①市全域の保健・福祉・子育て分野における本施設の位置づけと連携

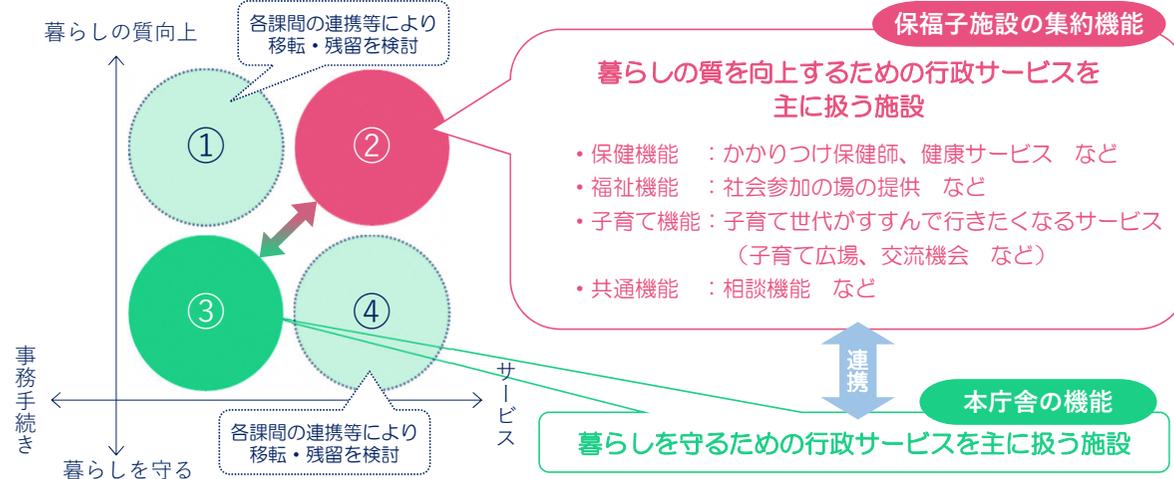
本施設は、保健・福祉・子育て分野における拠点とし、地区協議会等の地域組織と連携を行いながら市全体へのサービス提供を図る。



②本施設と本庁舎との棲み分けの考え方

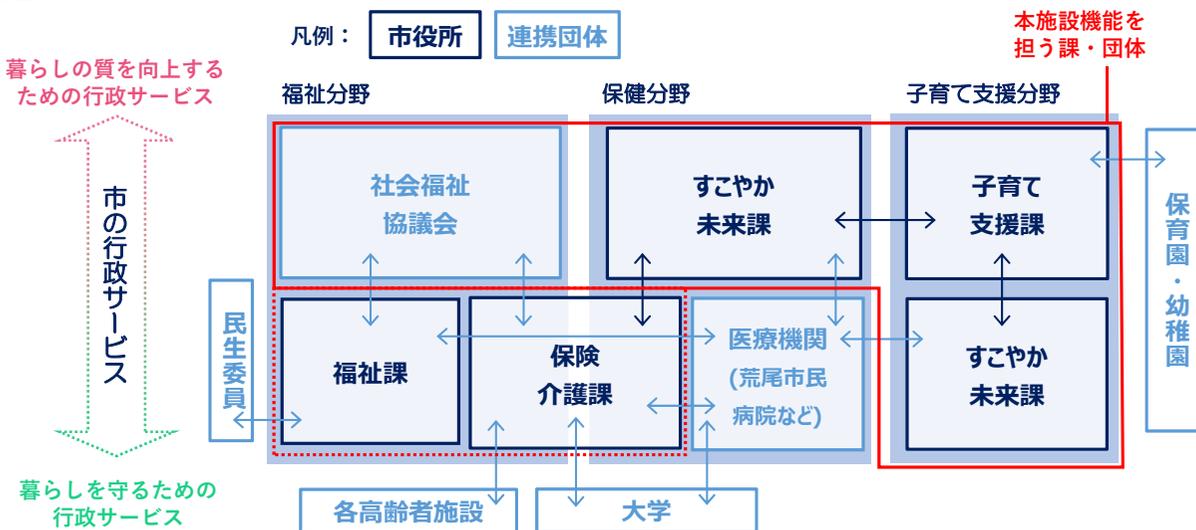
■本施設と本庁舎の機能連携と棲み分けのイメージ

本施設は、保健・福祉・子育て分野の「暮らしの質を向上するための行政サービス」を主に扱う施設とし、本庁舎を「暮らしを守るための行政サービス」を主に扱う施設として棲み分けをしつつ、相互に連携を行う。



■保健・福祉・子育て分野における関係課・団体の連携体制と本施設の担う範囲

ワンストップで相談及び行政サービスを受けつつ、関係する他の課・団体と連携しつなぎながら、サービスの向上を図る。



③参考事例

	保健機能（健康サービス）	福祉機能（社会参加）	子育て支援機能（子育て世代がすすんで行きたくなる）
事例	ながおかタニタ健康くらぶ（新潟県長岡市）	芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ（東京都港区）	ポートキッズパーク モーヴィ下関
事業主体	一般社団法人 地域活性化・健康事業コンソーシアム	民間（公益財団法人東京YMCA）	下関市（施設環境提案、工事、運営受託：株式会社ポーネルド）
概要	ながおか市民センター内に、健康の3要素「食」「運動」「休養」を良質でバランス良く実践できる健康づくりの拠点「タニタカフェ」を設置している。測定データがスマホと連携したり、健康ポイントが手に入り景品と交換できたりなど、気軽に・楽しく・簡単に健康づくりに取り組み、健康に関する相談窓口も設置されている。	一人ひとりが主役になれる場として乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層が多様な体験を楽しめる施設。乳幼児の子育て広場、学童クラブ児童の生活の場、小学生の遊びの場、中高生の活躍の場、高齢者の生きがいの場として、午前・午後・夜間で違った表情をもっている。	下関ポートレース場にできた屋外屋内両方を整備した全天候型の子供向け大型遊具施設。子どもの好奇心を刺激しながら、心と頭と身体のバランス良い発達を促すことをコンセプトとしている。1日4クールで1クール90分、300円、平均利用時間は2クール程度（親のクール延長料金は市が負担）。利用者数は平日50～60人、休日500～600人。
ターゲット	全年齢：健康プログラム、カフェ、身体測定、健康ポイント交換	子育て世代：ふれあいヨガ、アート・運動・子育て支援プログラム、相談等 小中学生：集団遊び、スポーツプログラム等 高齢者：囲碁や麻雀、カラオケ、ウォーキング等	6ヶ月～12歳の子ども：屋内、屋外 親子：レストスペース（飲食）、授乳室・おむつ替えスペース
規模	延床面積：約80㎡	延床面積：3,761.20㎡のうち、1928.30㎡が3階・4階	屋外面積：約3,200㎡ 屋内：530㎡
階数	1F～2F	3F～4F	1F
イメージ			
参考箇所	スマホと連動した健康管理システムや、健康な食事が手軽にとれるカフェの設置、健康ポイントによる意欲増進など、健康管理を身近に感じられ、市民健康増進のために様々なプログラムを用いている。	時間帯によって、施設の利用目的を分けることにより常時施設が利用されるようなシステムにしている。また、高齢者の居場所もありつつ、子どもたちの活動を高齢者が支援し交流できるようなシステムがなされている。	子どもの考えることや好奇心を刺激し、親と子どもと一緒に楽しく過ごすための仕掛けが多く展開されている。また、屋内には高難度で最先端の遊びが体験できる等、常に子どものあそびの追及が行われている。運営面では、ポーネルドの社員が運営管理とスタッフ教育を行っており、施設のソフト面の充実を行いながら地域の雇用創出にもつながっている。